

## 「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2012年3月22日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修4年

氏名：三浦歌織

派遣先大学名（国）：ハンバット大学(大韓民国)

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2011/8/30～12/17

渡航年月日：2011/8/30

帰国年月日：2011/12/17

### ○研究・学習概要及び今後の勉学計画

授業の内容は文法、聞き取り、作文、プレゼンなど総合的な韓国語の授業でした。中級ということで最初はついていけるか心配でしたが、内容的には1年以上勉強していれば充分ついていける内容だと思います。先生がとても熱心、親切な方で分からないことは丁寧に教えてくださいましたし、あとは自分のやる気次第だと思います。

私の場合、留学は在学中にしたいことのひとつでした。交換留学が決まったときにはすごく嬉しくて、この機会を無駄にしないようにしようと思い、出発したことを思い出します。4年次の留学ということもあり、研究が留学の大きな目的でもありました。卒業研究で韓国語の指示詞について研究していく中で、日本ではなかなか資料収集が困難なこと、韓国語を母語とする方々の協力が必要ということもあり、留学を望みました。授業のない日には図書館を利用し、資料収集に力を入れていました。また、日本語学科の先生方に質問しに行ったり、論文をみせていただいたりと、日本にいるときよりも卒業研究に向けて深い研究ができました。

### ○生活面について

寄宿舎での生活だったので特に不便と感ずることはありませんでした。ルームメイトも同じ交換留学生だったので、すぐに打ち解けることができたし、何の問題もありませんでした。日本人が一人ということもあり、最初は不安もあり言葉の面で苦労もありましたが、その分韓国語をもっと頑張ろうと思えたのでよかったと思います。

私の場合、授業は留学生のみの授業だったので、韓国人と一緒に授業を受けることはありませんでした。しかし、日本語学科のチューターがいたので学習面でも生活面でも困ったときは助けてもらい、本当に心強い支えでした。一緒に買い物に行ったり、ご飯を食べに行ったり、帰国して思い出すのはやはりこういった日々の数々で、彼ら彼女らのおかげで留学生生活を思いっきり楽しめました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

